

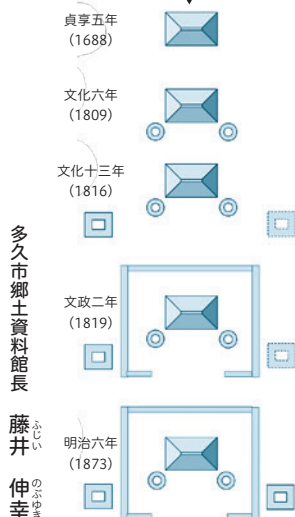
江戸から明治へ、肥前たく幕末維新百五十年

(六) 石祠 石に刻まれた歴史を復元する

左上の写真は北多久町にある石祠です。中央の石塔には「天満大自在天神」と刻まれ菅原道真を祀っています。この左右に一对の花入、これらを囲むように瑞垣が廻り、その外側に一对の灯籠があります。これら四種類の石造物すべてに年号が確認でき、時代順に並べること、その変遷がたどれる珍しい例です。約330年前に石祠が造られ、約200年以上前に花入、灯籠、瑞垣ができ、明治に入り右側の灯籠が設置(修復)されました。この年、明治六年には徴兵令が出され、地租改正がなされました。なお、市史には拜殿(木造)が慶応四年(九月改元明治元年)に新築されたこともあり、新時代の幕開けと重なりました。



石造物の変遷模式図



今月の論語

あやま
過ちを改めざる、
是を過ちと謂う

過ちを犯してしまって、それをそのままにして改めないのが、本当の過ちというものだ。

今月の帰宅放送は、東原座舎中央校9年 中島 葵さん(北多久町)です

教育長コラム

ちょっといい話



「すべての子どもたちへ」

きょうは、おなかいっぱい、たべましたか
いま、のどは、かわいていませんか
びくびくしたりしないであんしんしてねくれましたか
おふろにはいつて
せいけつになりましたか

しんぱいなこと

つらいこと

いやなこと

いやといえないこと

これってへんだなあとおもうこと

もし、そんなことがあれば、

せんせい・こうみんかんのおじちゃんやおばさん・

おまわりさん・

きんじよのひと・

だれでもよいので

はなしをきかせてね

あなたもしあわせに

なるけんりがあるのです

教育長 田原 優子

市民文芸

◆盗みせる生徒を哭(なみ)きてビンタせし

恩師の計報(けいほう) 紙上(しじょう)で知りぬ

浦野 嘉恵

◆枝ごとに花びつしりとつけて咲く

山茶花(さんざなばな)一樹(いつじゆ)の 力強(ちからづよ)さよ

川浪 信子

◆なぜ今と向き合わないで生(な)きるんだ

今を生(な)されば時は無(な)くなる

野崎 隆幸

◆職場での愚痴(ぐち)をこぼしに 来た海は

群青色(ぐんせいしょく)に輝(かがや)いており

梶原恵美子

◆新聞をとりに出(い)ずれば 朝焼(あさや)の

彩(いろ)に美(うつく)し 天皇誕生日

尾形 節子

◆雨上がり水面(みなも)をすべる 鴨(かも)の群(ぐん)

中嶋 清子

◆路地裏(ろぢり)の外燈(がひとう)導(う)る 霜夜(しもよ)かな

武富 律子

◆書初(かぞへ)の一画(いつがく)吾(われ)に迷(まよ)ひなく

富樫 明美

◆ごまかしの効(き)かぬ化粧(けしょう)の

初鏡 則子

◆深深(ふかふか)と孔子(こうし)の杜(と)に 初詣(はつげき)

本村 則子

◆傷心(きやうしん)を脹(ふく)らむ 梅(うめ)に 励(うま)まされ

井上 東子

◆梅(うめ)が散(ち)る 桜(さくら)に 席(せき)を ゆずるよう

西山 残月

◆それなりの暮(よる)し人生(じんせい) 謳歌(おうか)する

高塚 ちかこ

◆計画(けいかく)が机(き)の中で 大欠伸(おほくしん)

大谷 和

◆雨上がり 空鮮(くうせん)やかな 虹(にじ)の色(いろ)

田中 正春

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

俳句 《互選》

川柳 《多久市川柳会 互選》